

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月29日

【評価実施概要】

事業所番号	3870105271		
法人名	株式会社アクト企画		
事業所名	グループホーム 元気家		
所在地	松山市福音寺町615番地5 (電話) 089-915-8885		
管理者			
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成19年7月5日	評価確定日	平成19年10月30日

【情報提供票より】 (19年6月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤17人, 非常勤 2人, 常勤換算17人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(3) 利用者の概要 (6月14日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79.9 歳	最低 67 歳	最高 93 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり (なし)	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり (なし)	指定認知症対応型通所介護
届出	あり (なし)	短期利用型共同生活介護
加算	(あり)・なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田畑とモダンな住宅が混在する新興住宅地の中の川沿いに建ち、前方には他法人の総合施設が見える静かな環境である。利用者は日々の散歩に川沿いを歩き、川風の心地よさを味わい、鯉に餌を与え楽しんでいる。開設2年目を迎え、最近職員の異動があり、検討課題等はあるものの、職員は明るく生き生きと利用者に接している。ホーム内のリビング、廊下、トイレなど広くゆったりとくつろげ、車いすの移動もスムーズである。利用者のかかりつけ医の受診へも柔軟な対応で支援に努めている。今後ますますの地域との交流に意欲を持ち、地域密着型サービスを充実させていく姿勢に期待が持てる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
地域密着型サービスの創設による理念の見直しと具体的目標についてはまだ取り組みがなされていない。管理者、ユニット責任者の異動の関係もあり方針や意見の一致が取れていない点がある。評価の意義を理解し、より良いサービスの向上を目指して運営者、管理者、職員の意味統一を図り、日々のケアに反映することを期待する。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
職員全員で取り組んでいる。評価のねらいを理解し、実践に向けて更に積極的な取り組みが望まれる。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
市職員、町内会役員、家族を招き、議題にホームの紹介、認知症について取り上げ、ホームの存在と認知症について理解が進みつつある。また、家族の要望で評価の結果を公表し、活発に意見交換している。今後、評価に対する取り組みや改善経過を随時確認してもらい、質確保のため会議との一体化を図ることを期待する。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
「ご意見箱」を設置している。家族からは意見や要望が直接表明される関係が築かれており、あげられた意見等は苦情処理簿に記入し対応している。更に家族との信頼を深め、協力関係を築き、サービスの質の向上を期待する。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
利用者が地元の方ではないことで地域とのつながりが持ちにくい面はあるが、運営推進会議を通してホームへの理解が進んできつつあり、ホームと地域との連携、交流を通して、利用者が地域に根付いた生活をすることを支援する積極的な取り組みを期待する。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム元気家

(ユニット名) 太陽

記入者(管理者)

氏名 八雲 美恵子

評価完了日

平成19年 6月14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 暮らしを支えていくための理念はある。	※	もう少し具体的なものにして行きたい。
			(外部評価) 各ユニット名に因んだ事業所独自の理念を掲げている。全職員合意の理念ではあるが、地域の関係性が盛り込まれていない。	※	利用者が自分らしく地域で住み続けられるため、地域密着型サービスの意義を理解し、地域の関係性を盛り込んだ理念を作り上げることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念は玄関に掲示し、実践に日々取り組んでいる。		
			(外部評価) 管理者と職員は理念について話し合い、日々のケアに取り組んでいるが、理念に添った具体的な目標の統一、共有がなされていない。	※	管理者は職員との話し合いを重ね、ユニット単位で意見や思いの統一をはかり、実践に向けて、理念に添った具体的な目標を立てることが望ましい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族には理解してもらえてると思うが、地域の人々にはアピールできていない。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 町内会の付き合いはあるが、親しい付き合いまでは出来ていない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事には参加するように努めている。高校生のボランティアが定期的に来てくれている。	※	地域との交流に取り組みたい。
			(外部評価) 自治会に加入し、祭りの神輿がホームにも来てくれる。近隣の人たちとは散歩時などに利用者と共に挨拶を交わし、日常の交流を図っている。東西に細長い地域の特性もあって、婦人会、老人会、小中学校との交流が持ち難く、現在のところ実現できていない。	※	自治会の会合への出席を通して地域の行事に参加できるよう、又、小中学生の訪問・見学の受け入れにも、町内の役員の協力を得て、積極的な働きかけを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) たまにはあるが話し合いや相談を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全体で評価を行い、改善に取り組んでいる。 (外部評価) 自己評価を全職員で行い、外部評価と共にその結果を職員会議や運営推進会議で取り上げ、改善に向けての具体案を提示し、サービスの質の向上に努めている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 現状運営推進会議では報告する場になっている。今後は地域の方々と交流できるような会議にしていきたい。 (外部評価) 市職員、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、利用者家族などを招いて開催し、ホームの紹介及び運営についての質問、要望を受け、意見交換をするなど活発な会議である。また、家族の要望により、自己及び外部評価の結果を公表し、改善状況を報告している。管理者の異動があり、2か月ごとの開催ができていない。	※	今後、2か月に一度の開催を目指し、評価の取り組みや改善への取り組みを運営推進会議で確認してもらい、サービスの質の向上に役立てることを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 会議以外にも連絡や相談をしている。 (外部評価) 市担当者とは行き来があり、相談しやすい関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今後は活用できるように支援していきたい。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や職員会において、職員の意識の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に説明し、法改正による料金改正などの時にも詳しく説明し、同意を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 要望・意見は職員・管理者が聞くようにしており、出来る限り実現するようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 定期的に元気家だよりを請求書郵送時に同封している。その他状況は個々に連絡している。 <hr/> (外部評価) 利用者の様子や健康状態を電話や「ホーム便り」で報告している。金銭出納簿は領収書を添付し、報告している。今後、「ホーム便り」を季節ごとに発行する予定である。	※	「ホーム便り」の定期発行等を通して利用者の様子をこまめに知らせ、ホームとの信頼関係向上につなげていくことを期待する。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、自由に意見を出してもらえるようにしている。 <hr/> (外部評価) ホーム受付に「ご意見箱」を設けている。意見や要望は直接家族から出されるので、出された意見等を苦情処理簿に記録し、運営に反映している。	※	家族会をつくっていきたい。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃からコミュニケーションを図るようにしており、意見を言い易い雰囲気を心がける様になっている。月1回職員会を行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) なるべく移動の無いように努めており、利用者へのダメージを最小限にするよう配慮している。 (外部評価) 管理者は9か月前に赴任し、先月にもユニット責任者が交替するなど落ち着かないが、異動の際、利用者や職員が慣れるために、また、ケアの引継ぎをスムーズにするため、半月から1か月間2人でケアに携わる配慮をしている。職員の採用時に先輩職員との良好な関係が保てることも考慮に入れ、異動や離職を防ぐ努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修には出来る限り代表の職員に参加してもらうようにしている。月1回は勉強会を行うようにしている。 (外部評価) 職員の研修については、採用時1か月以内の研修と、経験に応じた研修を随時設けることを予定しているが、十分には実施できていない。内部研修は毎月第4週の職員会議で課題を取り上げ行っていたが、現在は都合により休止している。	※	運営者はホームの質とケアの向上のために職員の育成の重要性を十分に認識し、内外の研修機会を計画的に確保することを期待する。管理者は日々のケアを通して職員相互の課題を取り上げ、日常的に学びの機会を確保するなどの取り組みを望む。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者同士の交流はあるが、相互訪問等はまだ、出来ていない。 (外部評価) 管理者はグループホーム連絡協議会の研修に参加している。近隣の総合施設等のイベントには参加している。地域の同業者を受け入れる気持ちはあるものの、相互の交流には至っていない。	※	ホームの質の確保のため、地域の同業者との交流や連携を図る取り組みが望まれる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員のストレスや悩みを把握できるように努めている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 各自の努力や実績を把握し、資格取得に向けた支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査で必ず本人と面談して生活状況を把握するようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ご家族からじっくり話を聞き、不安感を取り除けるように対応している。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 柔軟に対応できるように努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用前には必ず見学に来て頂き、他の利用者とも顔なじみの関係になるようにしている。 (外部評価) 面接だけでなく、利用者本人と家族にホームを見学して貰い、徐々に馴染めるように工夫している。時間的に余裕がない場合は入居後、家族に訪問して貰い、安心感をもってもらうように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者の出来ることを見極めながら、共に楽しく生活していけるように心がけている。 (外部評価) 一方的に介護するだけでなく、経験豊かな先輩として積極的にコミュニケーションを図り、食事やおやつ時間の雑談時等に利用者の思いを汲み取り、学んだり、支えあう関係を築いている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の面会時には、利用者の状況を伝えている。行事などにも参加をしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族と利用者の関係がより良くなるように支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族には、出来るだけ面会に来てもらえるようお願いしたり、外泊や、外出に協力をお願いしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一人ひとりの個性を把握し、利用者同士の関係が円滑になるように支援している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 関わりを必要としている利用者や家族には連絡をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者の表情や態度で思いの把握に努めており、家族とも話し合いをしている。 (外部評価) 1階ユニットと2階ユニットの利用者はそれぞれ特徴があり、ユニット毎のカラーをふまえて、利用者一人ひとりの希望や思いの把握に努めている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人の話や家族の話などから、少しずつ把握するように努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) その日の状態により、状況を見極めながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者が自分らしく生活していくために、本人・家族の要望を聞き、介護計画の作成に活かしている。 (外部評価) 利用者が自分らしく暮らせるよう、管理者・利用者の担当者が本人と家族の要望を聞き、情報を収集して介護計画を作成しているが、聞き取った情報や本人・家族の要望が記録に残っていない部分がある。	※	本人や家族から思いや意見を聞き、日々のケアに反映させるため、また、日々のケアを振り返るためにも、聞き取った情報等の記録を作成することを望む。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1回見直しを行っている。状態の変化によっては随時見直しを行っている。 (外部評価) 3か月に1度の定期見直しを行うとともに、利用者の変化に応じてその都度見直しを行っている。	※	安定している利用者についても毎月見直しを行い、現状と利用者や家族の状況・要望とのズレがないよう現状に即した新たな計画を作成することを望む。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 身体的状況及び食事や排泄など個別に記録しており、見直しに活かしている。気づきや、情報も共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 柔軟な対応が出来るように支援している。 (外部評価) 原則としてかかりつけ医受診の際には家族が送迎することとしているが、状況に応じてホームで送迎したり、個別に要望を聞いたりして柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 活発な地域資源の利用は出来ていない。	※	協力体制をもっと蜜にして行きたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスの紹介はしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議や研修に参加することで、情報交換は出来ている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医と連絡をとり、適切な医療を受けられるように支援している。 (外部評価) 週3日透析を受ける利用者の支援など、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療病院において相談し、治療を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師と相談しながら、日々の健康管理を支援している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院との情報交換を常に行っており、可能な限り早期退院をアプローチするように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 出来るだけ早い時期から本人及び家族と話し合いながら支援している。 (外部評価) 重度化した場合については、入居時にホームの対応方針を説明し、家族の理解を得ている。状況に応じ、有料老人ホームや重度化に対応できる他施設を紹介している。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 出来るだけ利用者や家族の希望にそうように準備して行きたい。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 十分な話し合いを行い、出来るだけダメージを少なくする努力をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人の今までのプロセスを受容し、尊重するようにしている。 (外部評価) プライバシーの確保の大切さを職員は認識しており、日々のケアにおいてもさりげない声かけ、対応などに配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 解りやすい言葉で説明し、自分で決定出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態や、希望に合わせて支援している。 (外部評価) 買い物や散歩、食後のトランプなど利用者一人ひとりのペースを大切にし、状況に応じ希望に添って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 個々の好みや生活習慣に合わせて支援している。 理容・美容は本人や家族の要望に合わせている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付けを、出来る範囲でしてもらうようにしている。 (外部評価) 買い物の同行、調理の手伝い、食事の準備、また片付けなど利用者と職員が一緒に行い、同じテーブルで和やかに食事をしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 状況に合わせて支援している。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) オムツではなく出来るだけトイレを使用するように支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 出来るだけ本人の希望にそえるように支援している。 (外部評価) 毎日入りたい利用者には毎日、入浴の苦手な利用者には話し合うなど、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の生活習慣を把握して、状況に応じて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 本人の意思を確認しながら、散歩・手作業・掃除等してもらうように支援している。 (外部評価) 調理の下ごしらえ、洋裁、畑の草取り、また、歌やぬり絵など利用者の得意なことや経験を發揮できるように支援している。	※	もっと楽しく暮らせるように支援したい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の能力に応じて支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 出来るだけ希望にそえるように支援している。 (外部評価) 買い物に出かけたり、一日1回程度はホームに沿って流れる川沿いを散歩して鯉に餌をやるなど、利用者一人ひとりの希望に添って戸外に出かけられるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年に何回かは外出行事行っている。家族と一緒に外出・外泊は自由にしてもらっている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 出来るだけ希望に応じるように支援している。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問してもらえるように対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日々のケアの中で常に振り返りを行い、拘束していないか確認している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者が外へ出ようとされる場合は、一緒に出かけたり、さりげない声かけをしている。居室は自由にしている。 (外部評価) 玄関は施錠していないが、ロビーから居室、リビングへのドアはユニットごとにロックされ、自由に出入りできない。管理者は運営者と鍵をかけない工夫について話し合うが、意見の一致が得られていない。	※	安全確認できる範囲で出入り口の開放をして行きたい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は必ずリビングに職員が居るようにして、安全確保に努めている。夜間は時間毎に巡回して様子観察を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 本人が管理すると危険だと思われる物品は本人及び家族の了解を得て預りとしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故が発生した場合、速やかに事故報告書を作成し、職員全員で今後の予防策を検討し、事故防止に努めている。家族にも状況説明・報告をしている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当等は勉強会を開いている。緊急時のマニュアルは作成している。	※	全職員が同じ対応が出来るようにして行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) マニュアルを作成し、消防訓練も行っている。 (外部評価) 緊急時の連絡網を作成し、防火訓練を1回ホームで行った。今年度は9月に消防署の協力のもと避難訓練をする予定である。	※ ※	地域との協力関係 毎年定期的に消防署の協力を得て避難訓練、防火訓練を職員が利用者とともに実施することが求められる。また、自治会や運営推進会議で地域住民の協力を呼びかけていくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) リスクについては各家族と話し合い説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の状況を職員は把握しており、様子の変化が見られた時にはバイタルチェックを行い、場合によっては病院受診をしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は薬の目的や副作用については理解しており、処方箋どおり服用出来るように支援している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維や水分補給に注意し、出来る範囲で身体を動かし、生活リズムをつくれるように支援している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 1日1回は必ずチェックするように支援している。	※	毎食後の口腔ケア
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取量や水分量等は把握しており、その日の利用者の状態に合わせてメニューを変更したり、おかゆにしたりしている。 (外部評価) 利用者の希望を取り入れながら栄養バランスを考えて職員が献立を立てているが、カロリーや水分摂取量の記録がないため正確な把握はできていない。10月に同事業所の老人ホーム開設の予定があり、今後は栄養士の指導を受けることを考えている。	※	食事や水分摂取状況を記録し、定期的に栄養士等に点検してもらうことを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対する取り決めがあり、実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 殺菌・漂白など衛生管理に努め、食材などの点検も常に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 季節ごとの花を鉢に植えたりして、親しみやすい玄関にするように心かけている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感のある壁飾りや家庭的な雰囲気づくりを心がけている。 (外部評価) 居間、食堂は天井が高く、窓からの光が入り、明るくゆったりしている。廊下は幅広く手すりや木製のベンチが置かれ、くつろげる。利用者の肌に感じる温度差がまちまちなので、冷風口に紗のカバーをかけて温度調節をして居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファーやベンチなどで、気の合った利用者同士自由に過ごしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には本人の使い慣れた物や好みのものを自由に置き、居心地よく過ごせるように支援している。 (外部評価) 家族の写真、仏壇の持込やカレンダー、ぬり絵などのインテリアも見られるが、移動スペース確保のため全般にシンプルで、さっぱりしすぎる印象を受ける居室もある。	※	利用者の馴染みの物を備えるなど、その人らしい居室づくりに向け、家族の理解と協力を得るよう、尚一層の働きかけを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室は1日1回は換気を行い、リビングは状況に応じた温度調整をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 要所へ手すり・浴槽・トイレ等安心して暮らせるように配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室の入り口には名前を貼ったりトイレに表示したりして、自分のペースで生活できるように支援している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) プランターの花の手入れや裏庭の畑の水遣り、洗濯物の干したり、取り込んだりして、活かしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない 職員は日々の生活や、サービス計画書等により利用者の思いや意向を把握している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない おやつ時間・昼食後・午後・夕食後など、利用者のペースで職員と共にゆったり過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 1人ひとりのペースに合わせて生活している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 日々職員が支援することにより、穏やかな表情や笑顔が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 散歩・草引き・水遣りなどは毎日行っているが、買い物等は行く人が限られる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 日頃から職員同士情報の共有をしており、変化があれば報告・相談・受診など速やかな対応をしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 利用者の希望に出来る限り応じている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない 日頃から連絡をしており、希望や要望を聞き取るように心がけている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない 高校生ボランティアや一般のボランティアの訪問はある。地域の行事にも参加している。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	地域住民との関係を深めて行きたい。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生き活きと働いている。もっと良い職場になるように改善して行きたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	おおむね、その人らしく楽しく暮らしていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ほぼ満足されていると思っているが、もっと要望や意見が言い易い環境にして行きたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

○その人がその人らしく暮らしていけるように、個々に役割や楽しみを見つけるように支援している。

○残存機能の維持を心がけている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム元気家

(ユニット名) 大地

記入者(管理者)

氏名 八雲 美恵子

評価完了日

平成19年 6月14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 暮らしを支えていくための理念はある。	※	もう少し具体的なものにして行きたい。
			(外部評価) 各ユニット名に因んだ事業所独自の理念を掲げている。全職員合意の理念ではあるが、地域の関係性が盛り込まれていない。	※	利用者が自分らしく地域で住み続けられるため、地域密着型サービスの意義を理解し、地域の関係性を盛り込んだ理念を作り上げることが期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念は玄関に掲示し、実践に日々取り組んでいる。		
			(外部評価) 管理者と職員は理念について話し合い、日々のケアに取り組んでいるが、理念に添った具体的な目標の統一、共有がなされていない。	※	管理者は職員との話し合いを重ね、ユニット単位で意見や思いの統一をはかり、実践に向けて、理念に添った具体的な目標を立てることが望ましい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 家族には理解してもらえてると思うが、地域の人々にはアピールできていない。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 町内会の付き合いはあるが、親しい付き合いまでは出来ていない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事には参加するように努めている。高校生のボランティアが定期的に来てくれている。	※	地域との交流に取り組みたい。
			(外部評価) 自治会に加入し、祭りの神輿がホームにも来てくれる。近隣の人たちとは散歩時などに利用者と共に挨拶を交わし、日常の交流を図っている。東西に細長い地域の特性もあって、婦人会、老人会、小中学校との交流が持ち難く、現在のところ実現できていない。	※	自治会の会合への出席を通して地域の行事に参加できるよう、又、小中学生の訪問・見学の受け入れにも、町内の役員の協力を得て、積極的な働きかけを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) たまにはあるが話し合いや相談を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全体で評価を行い、改善に取り組んでいる。 (外部評価) 自己評価を全職員で行い、外部評価と共にその結果を職員会議や運営推進会議で取り上げ、改善に向けての具体案を提示し、サービスの質の向上に努めている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 現状運営推進会議では報告する場になっている。今後は地域の方々と交流できるような会議にしていきたい。 (外部評価) 市職員、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、利用者家族などを招いて開催し、ホームの紹介及び運営についての質問、要望を受け、意見交換をするなど活発な会議である。また、家族の要望により、自己及び外部評価の結果を公表し、改善状況を報告している。管理者の異動があり、2か月ごとの開催ができていない。	※	今後、2か月に一度の開催を目指し、評価の取り組みや改善への取り組みを運営推進会議で確認してもらい、サービスの質の向上に役立てることを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 会議以外にも連絡や相談をしている。 (外部評価) 市担当者とは行き来があり、相談しやすい関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今後は活用できるように支援していきたい。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や職員会において、職員の意識の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に説明し、法改正による料金改正などの時にも詳しく説明し、同意を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 要望・意見は職員・管理者が聞くようにしており、出来る限り実現するようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 定期的に元気家だよりを請求書郵送時に同封している。その他状況は個々に連絡している。 <hr/> (外部評価) 利用者の様子や健康状態を電話や「ホーム便り」で報告している。金銭出納簿は領収書を添付し、報告している。今後、「ホーム便り」を季節ごとに発行する予定である。	※	「ホーム便り」の定期発行等を通して利用者の様子をこまめに知らせ、ホームとの信頼関係向上につなげていくことを期待する。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、自由に意見を出してもらえるようにしている。 <hr/> (外部評価) ホーム受付に「ご意見箱」を設けている。意見や要望は直接家族から出されるので、出された意見等を苦情処理簿に記録し、運営に反映している。	※	家族会をつくっていきたい。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃からコミュニケーションを図るようにしており、意見を言い易い雰囲気心がける様になっている。月1回職員会を行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) なるべく移動の無いように努めており、利用者へのダメージを最小限にするよう配慮している。 (外部評価) 管理者は9か月前に赴任し、先月にもユニット責任者が交替するなど落ち着かないが、異動の際、利用者や職員が慣れるために、また、ケアの引継ぎをスムーズにするため、半月から1か月間2人でケアに携わる配慮をしている。職員の採用時に先輩職員との良好な関係が保てることも考慮に入れ、異動や離職を防ぐ努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修には出来る限り代表の職員に参加してもらうようにしている。月1回は勉強会を行うようにしている。 (外部評価) 職員の研修については、採用時1か月以内の研修と、経験に応じた研修を随時設けることを予定しているが、十分には実施できていない。内部研修は毎月第4週の職員会議で課題を取り上げ行っていたが、現在は都合により休止している。	※	運営者はホームの質とケアの向上のために職員の育成の重要性を十分に認識し、内外の研修機会を計画的に確保することを期待する。管理者は日々のケアを通して職員相互の課題を取り上げ、日常的に学びの機会を確保するなどの取り組みを望む。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者同士の交流はあるが、相互訪問等はまだ、来ていない。 (外部評価) 管理者はグループホーム連絡協議会の研修に参加している。近隣の総合施設等のイベントには参加している。地域の同業者を受け入れる気持ちはあるものの、相互の交流には至っていない。	※	ホームの質の確保のため、地域の同業者との交流や連携を図る取り組みが望まれる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員のストレスや悩みを把握できるように努めている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 各自の努力や実績を把握し、資格取得に向けた支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい内容 ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目))	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査で必ず本人と面談して生活状況を把握するようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ご家族からじっくり話を聞き、不安感を取り除けるように対応している。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 柔軟に対応できるように努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用前には必ず見学に来て頂き、他の利用者とも顔なじみの関係になるようにしている。 (外部評価) 面接だけでなく、利用者本人と家族にホームを見学して貰い、徐々に馴染めるように工夫している。時間的に余裕がない場合は入居後、家族に訪問して貰い、安心感をもってもらうように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者の出来ることを見極めながら、共に楽しく生活していけるように心がけている。 (外部評価) 一方的に介護するだけでなく、経験豊かな先輩として積極的にコミュニケーションを図り、食事やおやつなどの時間の雑談時等に利用者の思いを汲み取り、学んだり、支えあう関係を築いている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の面会時には、利用者の状況を伝えている。行事などにも参加をしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族と利用者の関係がより良くなるように支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族には、出来るだけ面会に来てもらえるようお願いしたり、外泊や、外出に協力をお願いしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一人ひとりの個性を把握し、利用者同士の関係が円滑になるように支援している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 関わりを必要としている利用者や家族には連絡をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者の表情や態度で思いの把握に努めており、家族とも話し合いをしている。 <hr/> (外部評価) 1階ユニットと2階ユニットの利用者はそれぞれ特徴があり、ユニット毎のカラーをふまえて、利用者一人ひとりの希望や思いの把握に努めている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人の話や家族の話などから、少しずつ把握するように努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) その日の状態により、状況を見極めながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者が自分らしく生活していくために、本人・家族の要望を聞き、介護計画の作成に活かしている。 (外部評価) 利用者が自分らしく暮らせるよう、管理者・利用者の担当者が本人と家族の要望を聞き、情報を収集して介護計画を作成しているが、聞き取った情報や本人・家族の要望が記録に残っていない部分がある。	※	本人や家族から思いや意見を聞き、日々のケアに反映させるため、また、日々のケアを振り返るためにも、聞き取った情報等の記録を作成することを望む。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1回見直しを行っている。状態の変化によっては随時見直しを行っている。 (外部評価) 3か月に1度の定期見直しを行うとともに、利用者の変化に応じてその都度見直しを行っている。	※	安定している利用者についても毎月見直しを行い、現状と利用者や家族の状況・要望とのズレがないよう現状に即した新たな計画を作成することを望む。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 身体的状況及び食事や排泄など個別に記録しており、見直しに活かしている。気づきや、情報も共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 柔軟な対応が出来るように支援している。 (外部評価) 原則としてかかりつけ医受診の際には家族が送迎することとしているが、状況に応じてホームで送迎したり、個別に要望を聞いたりして柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 活発な地域資源の利用は出来ていない。	※	協力体制をもっと蜜にして行きたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスの紹介はしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議や研修に参加することで、情報交換は出来ている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医と連絡をとり、適切な医療を受けられるように支援している。 (外部評価) 週3日透析を受ける利用者の支援など、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療病院において相談し、治療を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師と相談しながら、日々の健康管理を支援している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院との情報交換を常に行っており、可能な限り早期退院をアプローチするように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 出来るだけ早い時期から本人及び家族と話し合いながら支援している。 (外部評価) 重度化した場合については、入居時にホームの対応方針を説明し、家族の理解を得ている。状況に応じ、有料老人ホームや重度化に対応できる他施設を紹介している。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 出来るだけ利用者や家族の希望にそうように準備して行きたい。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 十分な話し合いを行い、出来るだけダメージを少なくする努力をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人の今までのプロセスを受容し、尊重するようにしている。 (外部評価) プライバシーの確保の大切さを職員は認識しており、日々のケアにおいてもさりげない声かけ、対応などに配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 解りやすい言葉で説明し、自分で決定出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態や、希望に合わせて支援している。 (外部評価) 買い物や散歩、食後のトランプなど利用者一人ひとりのペースを大切にし、状況に応じ希望に添って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 個々の好みや生活習慣に合わせて支援している。 理容・美容は本人や家族の要望に合わせている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付けを、出来る範囲でしてもらうようにしている。 (外部評価) 買い物の同行、調理の手伝い、食事の準備、また片付けなど利用者と職員と一緒にいき、同じテーブルで和やかに食事をしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 状況に合わせて支援している。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) オムツではなく出来るだけトイレを使用するように支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 出来るだけ本人の希望にそえるように支援している。 (外部評価) 毎日入りたい利用者には毎日、入浴の苦手な利用者には話し合うなど、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の生活習慣を把握して、状況に応じて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 本人の意思を確認しながら、散歩・手作業・掃除等してもらうように支援している。 <hr/> (外部評価) 調理の下ごしらえ、洋裁、畑の草取り、また、歌やぬり絵など利用者の得意なことや経験を發揮できるように支援している。	※	もっと楽しく暮らせるように支援したい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の能力に応じて支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 出来るだけ希望にそえるように支援している。 <hr/> (外部評価) 買い物に出かけたり、一日1回程度はホームに沿って流れる川沿いを散歩して鯉に餌をやるなど、利用者一人ひとりの希望に添って戸外に出かけられるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年に何回かは外出行事行っている。家族と一緒に外出・外泊は自由にしてもらっている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 出来るだけ希望に応じるように支援している。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問してもらえるように対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日々のケアの中で常に振り返りを行い、拘束していないか確認している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者が外へ出ようとされる場合は、一緒に出かけたり、さりげない声かけをしている。居室は自由に行っている。 (外部評価) 玄関は施錠していないが、ロビーから居室、リビングへのドアはユニットごとにロックされ、自由に出入りできない。管理者は運営者と鍵をかけない工夫について話し合うが、意見の一致が得られていない。	※	安全確認できる範囲で出入口の開放をして行きたい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は必ずリビングに職員が居るようにして、安全確保に努めている。夜間は時間毎に巡回して様子観察を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 本人が管理すると危険だと思われる物品は本人及び家族の了解を得て預りとしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故が発生した場合、速やかに事故報告書を作成し、職員全員で今後の予防策を検討し、事故防止に努めている。家族にも状況説明・報告をしている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当等は勉強会を開いている。緊急時のマニュアルは作成している。	※	全職員が同じ対応が出来るようにして行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) マニュアルを作成し、消防訓練も行っている。 (外部評価) 緊急時の連絡網を作成し、防火訓練を1回ホームで行った。今年度は9月に消防署の協力のもと避難訓練をする予定である。	※ ※	地域との協力関係 毎年定期的に消防署の協力を得て避難訓練、防火訓練を職員が利用者とともに実施することが求められる。また、自治会や運営推進会議で地域住民の協力を呼びかけていくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) リスクについては各家族と話し合い説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の状況を職員は把握しており、様子の変化が見られた時にはバイタルチェックを行い、場合によっては病院受診をしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は薬の目的や副作用については理解しており、処方箋どおり服用出来るように支援している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維や水分補給に注意し、出来る範囲で身体を動かし、生活リズムをつくれるように支援している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 1日1回は必ずチェックするように支援している。	※	毎食後の口腔ケア
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取量や水分量等は把握しており、その日の利用者の状態に合わせてメニューを変更したり、おかゆにしたりしている。 (外部評価) 利用者の希望を取り入れながら栄養バランスを考えて職員が献立を立てているが、カロリーや水分摂取量の記録がないため正確な把握はできていない。10月に同事業所の老人ホーム開設の予定があり、今後は栄養士の指導を受けることを考えている。	※	食事や水分摂取状況を記録し、定期的に栄養士等に点検してもらおうことを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対する取り決めがあり、実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 殺菌・漂白など衛生管理に努め、食材などの点検も常に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 季節ごとの花を鉢に植えたりして、親しみやすい玄関にするように心かけている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感のある壁飾りや家庭的な雰囲気づくりを心がけている。 (外部評価) 居間、食堂は天井が高く、窓からの光が入り、明るくゆったりしている。廊下は幅広く手すりや木製のベンチが置かれ、くつろげる。利用者の肌に感じる温度差がまちまちなので、冷風口に紗のカバーをかけて温度調節をして居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファーやベンチなどで、気の合った利用者同士自由に過ごしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には本人の使い慣れた物や好みのもの自由に置き、居心地よく過ごせるように支援している。 (外部評価) 家族の写真、仏壇の持込やカレンダー、ぬり絵などのインテリアも見られるが、移動スペース確保のため全般にシンプルで、さっぱりしすぎる印象を受ける居室もある。	※	利用者の馴染みの物を備えるなど、その人らしい居室づくりに向け、家族の理解と協力を得るよう、尚一層の働きかけを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室は1日1回は換気を行い、リビングは状況に応じた温度調整をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 要所へ手すり・浴槽・トイレ等安心して暮らせるように配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室の入り口には名前を貼ったりトイレに表示したりして、自分のペースで生活できるように支援している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) プランターの花の手入れや裏庭の畑の水遣り、洗濯物の干したり、取り込んだりして、活かしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	職員は日々の生活や、サービス計画書等により利用者の思いや意向を把握している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつ時間・昼食後・午後・夕食後など、利用者のペースで職員と共にゆったり過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	1人ひとりのペースに合わせて生活している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々職員が支援することにより、穏やかな表情や笑顔が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	散歩・草引き・水遣りなどは毎日行っているが、買い物等は行く人が限られる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日頃から職員同士情報の共有をしており、変化があれば報告・相談・受診など速やかな対応をしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の希望に出来る限り応じている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	日頃から連絡をしており、希望や要望を聞き取るように心がけている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	高校生ボランティアや一般のボランティアの訪問はある。地域の行事にも参加している。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③あまり増えていない 4 全くいない	地域住民との関係を深めて行きたい。
98	職員は、生き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生き活きと働いている。もっと良い職場になるように改善して行きたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	おおむね、その人らしく楽しく暮らしていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ほぼ満足されていると思っているが、もっと要望や意見が言い易い環境にして行きたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

○その人がその人らしく暮らしていけるように、個々に役割や楽しみを見つけるように支援している。

○残存機能の維持を心がけている。